

【法人の概要】

代表者名	理事長 渡邊聡尚	所管部(局)課	農政部畜産課		
所在地	山梨県北杜市小淵沢町大平10061	電話番号	0551-36-3200		
ホームページURL	https://www.yatuboku.jp	E-mailアドレス	yatuboku@io.ocn.ne.jp		
資本金(基本財産)	10,000 千円	設立年月日	昭和52年3月23日		
主な出資者等	出資順位	出資者名等		出資額	出資比率
	1	山梨県		10,000 千円	100.0 %
	2			千円	0.0 %
	3			千円	0.0 %
	4			千円	0.0 %
	5			千円	0.0 %
	出資その他	団体(者)		千円	0.0 %
	その他			千円	0.0 %
合計			10,000 千円		
設 目 経 緯 概 況 等	設立目的: 山梨県の子牛の生産、育成を振興し、もって畜産の安定発展に寄与すること。 経緯概況等: 県営八ヶ岳牧場は、条例に基づき県の肉用牛生産基地として、肉用牛繁殖育成事業を行ってきた。 昭和52年:(財)山梨県子牛育成協会が設立され、協会は県から牧場管理業務の一部を委託された。 昭和60年:県営八ヶ岳牧場から、県立八ヶ岳牧場と改称し、協会は県から牧場の管理業務を全面委任された。 平成5年:県立まきば公園と天女山分場整備に伴い、協会は県からまきば公園の管理業務を委託された。 平成12年:堆肥化処理施設の移働により、堆肥の販売を開始。 平成13年:周年預託業務を開始。 平成18年:県立八ヶ岳牧場、県立まきば公園の指定管理者となっている。 平成23年:公益財団法人に認定された。				

【主要事業の概要】

主な事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業1 八ヶ岳牧場管理受託業務	県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却 農家家畜(牛・馬)の周年受託業務 草地等の維持管理業務、農家の巡回調査指導業務 肉用牛の改良増殖業務、家畜排泄物処理業務等	200,211	193,615	211,877
事業2 まきば公園管理受託業務	めん羊(サフォーク種)の増殖業務及びふれあい動物の飼養管理 公園施設、草地、植栽の維持管理 来園者の対応、各種イベントの開催	17,530	17,830	18,270
事業3				

【組織】

各年度体制	年度	令和 3 年度					令和 4 年度					令和 5 年度								
		職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ 他	職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ 他	職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ 他	
役員等	理事(常勤)	1				1				1				1					1	
	理事(非常勤)	8			2		6	8			2		6	8			2		6	
	監事(常勤)	0						0					0							
	監事(非常勤)	2					2	2					2	2					2	
	評議員	5					5	5					5	5					5	
計	16	0	0	2	1	13	16	0	0	2	1	13	16	0	0	2	1	13		
職員	管理職	1	1				1	1					0	0						
	一般職員	20	20				19	19					20	20						
	臨時職員	2					4					4	3						3	
	非常勤職員	0					0						0							
計	23	21	0	0	0	2	24	20	0	0	0	4	23	20	0	0	0	0	3	
令和5年度 プロパー職員 の年齢構成 (令和6年4月1日現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計												
	男性		4	3	6	1	3	17	役員										(千円)	
	女性		1	1		1		3	常勤	※									※	
合計	0	5	4	6	2	3	20	職員											(千円)	
									常勤	41									4,966	

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減
正味財産の状況	基本財産等運用益	47	47	47	0
	受取会費・受取寄付金	0	0	0	0
	受託事業収益	217,742	215,073	233,756	18,683
	自主事業収益	42,593	53,384	58,936	5,552
	受取補助金等	0	0	0	0
	その他の収益	2,724	1,595	1,304	△ 291
	経常収入 計	263,105	270,100	294,043	23,944
	事業費	241,694	260,533	286,467	25,935
	うち人件費	135,872	136,055	140,983	4,928
	管理費	11,181	11,323	11,550	226
	うち人件費	9,656	9,754	9,587	△ 167
	経常支出 計	252,875	271,856	298,017	26,161
	当期経常増減額	10,230	△ 1,756	△ 3,974	△ 2,218
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	0	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	10,230	△ 1,756	△ 3,974	△ 2,218	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	
正味財産期末残高	121,568	119,811	115,837	△ 3,974	

(単位:千円)

項 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減
財務状況	流動資産	54,473	51,809	58,559	6,750
	固定資産	131,711	133,785	132,891	△ 894
	資産 計	186,183	185,594	191,450	5,856
	流動負債	36,815	41,998	54,752	12,753
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	27,801	23,784	20,861	△ 2,923
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	64,616	65,783	75,613	9,830
	正味財産	121,568	119,811	115,837	△ 3,974
	うち基本財産への充当額	10,000	10,000	10,000	0
うち特定資産への充当額	72,329	54,439	61,621	7,182	

(単位:千円)

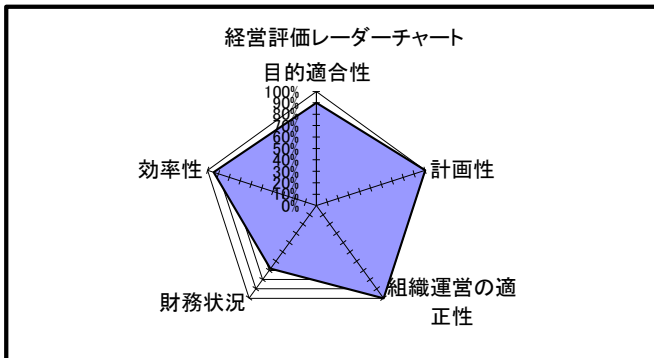
項 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減
県の財政的関与の状況	負担金	0	0	0	0
	人件費補助金	0	0	0	0
	人件費以外の補助金	0	0	0	0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	0	0	0	0
	補助金 計	0	0	0	0
	人件費委託金	135,872	136,056	140,983	4,927
	人件費以外の委託金	81,870	79,017	92,773	13,756
	委託金 計	217,742	215,073	233,756	18,683
	県支出金 計	217,742	215,073	233,756	18,683
	県の財政的関与の割合(%)	82.8	79.6	79.5	△ 0.1
県貸付金残高	0	0	0	0	
県債務負担実際残高	0	0	0	0	

【県の財政的関与の状況(令和4年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	該当なし
補助金 (運営費)	該当なし
補助金 (事業費)	該当なし
委託金	県立八ヶ岳牧場管理委託費…農家家畜を受託管理するとともに、県有牛を改良増殖・供給し、本県の畜産振興に資する。(R4委託料:192,404千円 R4:追加委託料19,473千円) 県立まきば公園管理委託費…自然の中で動物とのふれあいの場を提供し、県民の畜産への理解を深め、県民の保健休養に資する。(R4委託料:18,280千円) 死亡牛焼却処理業務委託費…西部家畜保健衛生所より県が行う牛海綿状脳症(BSE)検査後の死亡牛の受入及び焼却処理業務を受託(R4委託料:3,599千円)
県債務負担 実際残高	該当なし

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	9	90.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	10	100.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	30	68.2%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	17	94.4%
合計		21	92	76	82.6%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	県立八ヶ岳牧場では、農家家畜の受託管理並びに県肉用繁殖牛の改良及び子牛の売却を行い、本県畜産農家の経営安定に寄与するとともに、県立まきば公園では自然や動物とのふれあいを通じて、一般県民等に憩いの場を提供するなど、指定管理者として基本協定に基づき業務を適正に行っている。飼料価格等の高騰が畜産農家の経営を圧迫する中、農家が保有する乳用牛・肉用牛の受託頭数は過去最多となり、延頭数で144,623頭と目標頭数(120,000頭)を大幅に上回った。一方、まきば公園の利用者は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の行動制限が緩和されたことで増加したが、コロナ禍前の70%程度にとどまった。
計画性	毎年度、事業計画を策定し、より効率的な管理運営と経営の安定を図るとともに、計画と実績の比較分析を行い、業務・経営の改善に努めてきた。急激な飼料費等の高騰が経営に影響を及ぼす恐れがあるため、価格動向を注視していく必要がある。
組織運営の適正性	適正な運営を行うため、随時、組織や職員数の見直しを行っている。また、定期的に行っているミーティングにより職員間の意思疎通やモチベーションの向上を図るとともに、職員研修により職員の資質向上を図る中で組織の強化に努めてきた。事業活動内容や財務状況について、ホームページで公開し透明性の高い運営を図っている。
財務状況	預託頭数が過去最多となったことにより利用料収入は増加したが、飼料費や原材料費の急激な高騰などによる費用の増加が収益の増加を上回った。こうした価格高騰による費用の増加を補填するため県から追加委託料を受けたが、一般正味財産増減額は、3,973,626円の赤字となった。
効率性	管理施設では年間を通じて家畜を飼養しており、効率的に活用している。令和4年度は預託頭数が過去最多となる中、計画的な人員管理により人件費を抑制するなど効率的な運営を進めてきた。一方、まきば公園においても新型コロナウイルスに係る行動制限が緩和されたことで利用者が戻りつつあり、職員一人当たりの施設等利用人数は、対前年比で増加した。
総合的評価	優良素牛の売却等により甲州牛の生産基盤強化に寄与するとともに、飼料費等が高騰する中での受託家畜の受入増加、繁殖管理の充実等により利用者ニーズに応えてきた。一方、まきば公園においても新型コロナウイルスの影響で大幅に減少した利用者が戻りつつある。今後も飼料や肥料など原材料価格の高騰が続くことが想定されることから、更なる経費節減など経営改善に努めていく必要がある。



対応策	八ヶ岳牧場業務については、県有牛の改良や優良子牛の生産について、性選別精液や受精卵移植の活用など繁殖技術や飼養管理技術の向上を図り、利用者のニーズに合ったサービスを提供することで、更なる向上に努める。 まきば公園については、令和4年度に展示室や園内の案内看板のリニューアルを行ったところであり、更なる園内美化やサービスの向上に努めるとともに、ホームページ等による情報発信を積極的に行い、利用者の拡大を図っていく。 今後も安定的に質の高いサービスを提供し続けられるように、飼料費等の価格動向を注視しつつ経費節減に努めるなど、合理的な経営を進めていく。
-----	--

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	本県における大家畜の畜産振興を推進するため、県条例並びに当協会設置目的に従い、適切に受託事業等を実施しており、目的に適合している。 前年に引き続き受託頭数が過去最多頭数となり、飼料価格等の高騰により経営が逼迫する県内畜産農家の要望に応えていることは評価できる。また、まきば公園については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の行動制限が緩和されたことで増加している。イベントの再開やSNS等を活用した積極的な広報活動によって、コロナ禍以前のような来園者数確保に引き続き取り組む必要がある。
計画性	経営計画・年次計画に基づいて、適切に管理運営が行われている。また、事業分析により業務改善に努めているが、今後も適切な管理運営を継続する必要がある。
組織運営の適正性	組織運営とリスク管理に必要な体制整備が行われ適切に運用されている。事業活動内容や財務状況もホームページにて公開されている。引き続き、業務上のリスクの共有・対応方法の定期的な検討や、法人事業・イベント等の積極的な情報発信、適正な組織運営に努める必要がある。
財務状況	受託頭数の増加により利用料収入は増加しているが、飼料や肥料価格の高騰による影響で、追加委託料を措置したものの正味財産増減額は2期連続のマイナスとなっている。飼料や肥料の価格は緩やかな下落傾向が見られるものの、依然として高止まりが続いている。引き続き飼料等の価格動向を注視しつつ、自給粗飼料の安定確保や経費削減に努め、収支状況の改善に取り組む必要がある。
効率性	まきば公園の来園者数およびハヶ岳牧場の受託頭数の増加により、職員1人当たりの施設等利用人数は昨年度と比較し改善されている。両施設のさらなる利用増加に向けて、引き続き積極的な広報活動等に努める必要がある。
総合的評価	設立目的に沿った事業を実施しており、適切な法人運営が行われている。 飼料や肥料の価格高騰が続き、畜産農家の経営が苦しい中で、ハヶ岳牧場では農家の要望に応え多くの農家有家畜の受託を行い、畜産農家の負担軽減を図る公共牧場としての役割を果たしていることは評価できる。また、まきば公園については、新型コロナウイルスの影響で大幅に減少した利用者が戻りつつある。 一方で、法人の収支は、飼料等の価格高騰の影響から正味財産増減額が2期連続のマイナスとなっている。利用者の要望に応えながら、自給粗飼料の安定確保や一層の経費削減に努め、収支状況の改善に取り組む必要がある。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	A	A 得点率80%以上かつ警戒指標なし B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1 C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2 D 得点率60%未満または警戒指標が3以上
総合的所見	得点率 82.6 % 警戒指標数 0	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、ハヶ岳牧場における家畜の受託頭数が目標数値よりも大幅に上回り、2年連続で過去最多を更新した。また、新型コロナウイルスの影響を受けて減少していたまきば公園の入園者数は、目標数値には達しないものの回復傾向にあり、目的適合性の評点が上昇した。さらに、上記受託頭数の増加と入園者数の増加は、職員1人当たり施設等利用人数の増加につながり、効率性の評点も上昇した。 財務状況は飼料や肥料価格の高騰により経常支出が増大したことで悪化しており、当期一般正味財産増減額は2期連続で赤字となったため、引き続き自給粗飼料の安定確保に努める必要がある。 今後も、畜産農家の経営安定を図るとともに、甲州牛の生産基盤強化に努めるなど、本県の畜産振興に寄与することが期待される。



【総合評価に対する今後の対応方針】

<ul style="list-style-type: none"> ハヶ岳牧場においては近年の飼料・肥料価格の高騰・高止まりの影響で、受託頭数を増やせば収支のマイナスが拡大するという状況が続いている。今後も飼料価格等の高止まりが当面の間続くことが想定されるが、自給飼料の安定確保に努める中で、経営が逼迫している県内畜産農家の要望に応えていく。 まきば公園については、イベントを積極的に開催するとともに、ホームページによる情報発信やまきばレストランなどの近隣施設と連携した広報活動により、利用者の増加を図っていく。
